# ゲームマシン
THE GAME MACHINE

発行所
ゲームマシン社
大阪市北区木幡町45アドビル内
〒530 電話 06（313）0451 内41
定価1部 200円
年間購読料（送料共） 7,200円
本紙ご購読ご希望の方は、上記あて現金書留にてご送金下さい。

'74ゲームマシンフェスティバル
アイデアと技術で創るゲームの世界

## 十七社が出展参加
### 会場のディスプレイなども進行

前評判の高い74ゲームマシンフェスティバルはいよいよ、十月二十、二十一日に開かれる。出展参加する会社名も発表になり、あとは当日の会場での企画に焦点は移った。

十月二十、二十一日に開催される「74ゲームマシン・フェスティバル」に出展参加する会社について、実行委員会（橋本敬親委員長）から、参加は十七社である、と発表があった。詳しい社名はあとにのべるが、これら十七社によるスペースの配置も図（右下）のように決定し、いちばん奥のステージを中心に、ゲームマシン業界の〝秋まつり〟が盛りあげられる。

有名歌手によるアトラクション、美人ディラーによるルーレット抽選会、バニーガールによるドリンクサービスなどの企画も、実行委員会の手により着実に進められており、当日の来場を同委員会は呼びかけ、関係業者に招待の案内をする。

開催時間は、両日とも午前十時から午後六時までとなっており、二十一日フェスティバルの終了後、関係者が集まって懇親会を開き、フェスティバルの成果と今後の業界のありかたについて話し合うことになっている。

なお、入場は無料であるが、招待券のない未成年者などは排除する。健全娯楽業者ならびに関係者ならば、当日招待券なしでも入場できることは言うまでもない。

出展参加社名は次のとおりである。(五十音順)

アスター商事㈱
大阪パシフィックベンディング㈱
㈱カワクス
㈱関西企業
㈱関西レジャーサービス
㈱サービスゲームス
㈱ジャトレ
ジャパン・オーバーシーズ・ビジネス㈱
ダックス貿易㈱
日本ジュークボックス
任天堂㈱
㈱ビクトリー
㈱フジ
㈱フジ・エンタープライゼス
㈱マックス
リバーストーン商会
（以上十七社）

ゲーム場オープンのニュースを、本紙までお知らせ下さい。

主催・'74ゲームマシン・フェスティバル実行委員会

国鉄環状線 福島駅 大阪駅 至淀川大橋 堂島大橋 玉江橋 梅田 至桜之宮 至天満橋 大阪国際貿易センター ロイヤルホテル 大阪大学 朝日新聞社 土佐堀通 至本町

大阪国際貿易センタービルの道順
（大阪市北区玉江町2丁目2番地 電話 06（445）0251）

# ゲームマシンを使ったとばく犯　昨年1年間大阪府下だけで
# 検挙2800件　没収1324万円
## 大阪府警保安課にきく

## ゲーム場にも監視強化　大阪府警
### 喫茶店などのとばく犯には断固処置

さる八月大阪府警は府下のゲーム場業者に警告文を配布したが、ゲーム場業者以外の、喫茶店などでのとばく犯はなお増加の傾向にある。府警はその種の取締りを強化する一方、ゲーム場に関する実態調査を行なっている。

今回、大阪府警保安課行政担当課長補佐の、香味幸雄警部のお話を聞く機会を得た。

大阪府警察本部防犯部保安課の調べによると、ロタミント等のとばく犯の検挙数は

昭和四七年　一、四九一件
四八年　二、八〇〇件

と増加の一途をたどっている。またメダルゲーム場は、今年九月現在、大阪府下だけで三五〇軒を越したといわれ、ホール業者の中には一部換金行為などの違法業者も出現した。このため府警では相当詳細な調査を開始、現在三一六のゲーム場について調査を終えた。

ロタミントなどのマシンが喫茶店などに設置され、客にとばく行為をさせるというのは、昭和四三年頃からで、当然ながら府警では違反者を検挙していったが、昭和四七年には一、五〇〇件近くになるなど、目に余ってきた。

そこへ四八年六月中日スタヂアム事件が起ったが、この種の関係者こそがロタミント、スロット等の80%以上のシェアを独占していたと府警ではとらえ、その後の動向に重大な関心を払い、注目していた。

この事件を前後して、いわゆるカジノゲーム場が大阪府下に雨後のたけのこのように出現、八月の府警調査では三七ホールを数えるに至った。

ちょうど米国バリー社の重役が来日、東京でショーを開催していた頃である。

この前後から、J・ルックリンアミューズメント（ホンコン）を通じて東南アジアのスロットマシンが大量に日本に流れこんだ。府警ではこのマシンの一部が、中日スタヂアム事件以後、一時期混乱状態にあった単品リース業者にも流れたとみている。

また、これらスロットが換金行為を伴わない合法的メダルゲーム場に大量に流れ、現在の三五〇ホールを越すゲーム場の出現となったわけだ。

このゲーム場に対して府警でも注視し、監視体制をとってきたが、この異常ともいえる増加ぶりには驚ろいている現状である。

### 業者の自主規制に期待

このようなゲーム場の繁栄ぶりで、喫茶店などのとばく機は減少したかというと、これがまったく逆である。とばく行為により府警が没収した金額は、

四七年　一二五三万円
四八年　一、三二四万円

で、今年は上半期だけですでに昨年の一三二四万を越す増加ぶりである。

また、メダルゲーム場では、一応自主規制しているため、そういう不祥事はみあたらないが、それでも皆無とはいえない。このままだと府警としても喫茶店のとばく行為などと同様に取締りを強化検挙しなければならないし、また暴力団の介入ということもひんぱんに起っており、現在、警察にとって無視できない事態となってきている。

これに対し、東京では、メダル協議会が結成され、メダルゲーム場の運営にも細かい基準が作られるなど、一応の対策がとられているが、大阪の場合、短期間に大量出現したこともあり、ホール業者において、まとまりを欠くうらみがあることも否めない事実である。

現在、大阪でもホール業者が「大阪メダルゲーム協同組合」のもとに集結し、自主規制を行なおうという動きが、ようやく実を結びつつあるが、府警では八月に警告文を配布した直後でもあり、同組合の今後の動向に大いに注目しているとのこと。

### ゲーム場361件の調査完了

なお、香味警部のお話では、今後府警として看過できない事態にいたれば、条例改正等による強硬手段も辞さない方針とのこと。

もしそういった事態になれば、とばく行為の有無を問わず、全面禁止になることは必至であり、それだけに「大阪メダルゲーム協同組合」の今後の活動が注目されている。

府警では二ヵ月間にわたり、府下のメダルゲーム場三一六ホールに関する実態調査を行い、今後り業者の動向いかんでは ただちに府議会において条例改正を行い、全面禁止の措置をとれるだけの資料を現在、すでに完備している。

今回の府警調査は、府警独自による調査であり、設置マシン台数と機種名、代表者、プレイ料金、営業時間、換金行為の有無とその形態等々、細かい点にまで調査がなされている。

それだけに、換金方法を後日郵送にしたり、メダルを他で買いあげたりなどの姑息な手段で切り [illegible] とは確かだ。

当然ながら、とばく行為は、刑法が改正されてとばく犯の条文が削除されないかぎり、犯罪であり、検挙の対象となる。

今回の香味警部とのインタビューで「大阪府警では、実態調査も終え、いつでも行政措置をとれる段階にあり、現在は警告書を配布し、それに対し、府下のホール業者がどのような対応をしてくるか。その対応いかんによって府警としての次の措置を考えていこう」との印象を強く受けた。

業者はもっと真剣に、これらの状況を見ていく [illegible]

### ディーラーの養成

ルーレットテーブルなどにディーラーは不可決であるが、素人のディーラーがやっているゲームコーナーほどみじめなものはない。

そこでディラーの養成も行なうルーレット教室をお教えしょう。

東京都新宿区新宿三—二三—一二パンドラビル四階「新宿パンドラルーレット教室」。東京都港区六本木七—一八—一二シーボンクィーンビル三階「六本木シーボンルーレット教室」。稲城市矢野口三二九四読売グリーンクラブ「読売ランドルーレット教室」。

これらはいずれも東京方面だが、関西には神戸にもある。さきの三つの教室の中心は日本ルーレット研究会で、和田研究所内にある。（東京都渋谷区渋谷二—一一—一　和田研究所　電話〇三（四〇〇）六六八八

ルーレット愛好者から一流デュラーまで、この道は深くて楽しい。





# 新型ゲームテーブルに人気集中
## ジャトレアミューズメントショー

九月二〇、二一の両日にわたる、ジャトレアミューズメントショウは成功裡のうちに終った。

㈱ジャトレ（本社東京竹内清一社長）による「ジャトレアミューズメントショウ」は、九月二〇日午前十時、東京プリンスホテルにおいて、二日間にわたるショウの幕を華々しく切って落した。

会場は入口からホールに至るまで、プロジェクターによるラスベガスの夜景やカジノの風景が壁面に投映され、ホールに着くまでにカジノのふん囲気になじんでいくようになっている。

ホール手前には、ウィール・オブ・フォーチュン、チャック・ア・ラックなどの新しいゲームのテーブル類が随所に設けられ、それぞれ美人プロディーラーがお客を待ち受けている。ウィール・オブ・フォーチュンは大きな円盤が回り、三個のダイスの目が決定されるというもの。

さて、奥へ行くと、ここはおなじみのランウェイ、カロラマのほかに、ダービーの楽しめるウィナーズ・サークル、金庫をあけるザ・セイフ、トランプゲームの楽しめるバリー社のコンピューター・トウェンチィワンなどのゲームマシンが展示されている。

なお会場には、㈱ジャトレと直接取引のある欧米各社の担当重役が、来場者の質問、相談に応じている風景がみられる。

コンピューター21の説明に加わる竹内社長

ウィール・オブ・フォーチェンがまず人目を引く

ルーレットテーブルにつづく人気のブラックジャック

談話がはずむ会場中央

### 事業プランに役立つよう配慮

全国からゲーム場経営者が続々と来場、竹内社長をはじめ、ジャトレ社員の説明に熱心に耳を傾け、今後の事業計画に役立てようと意欲を燃やしていた。

実際にゲームしながら新しいテーブルや、マシンになじみ、興味を起すには、これは実にふさわしい。また、ゲームコーナーのプランに寄与しようとする主催者の意図もうまく当っているようである。

### はじめての企画、大きな反響

当日、大忙がしの仲田氏（㈱ジャトレ貿易部長）にそう言うと、仲田氏も「なにしろはじめての企画なのでいろいろと苦労しましたが、いざフタをあけてみると意外なほど好調で安心しています。やはり最近のゲームマシンブームの影響でしょうか」と控えめに述べられた。

なお当日、テーブル類の世界的サプライヤーである英国・リンドセイ氏、ならびにスロットマシンなどあらゆるゲームマシンを扱っておられる米国・ジョーンズ氏の二氏との会見をすることができたが、これは仲田氏の労によってなされたものである。（詳細は本号2・3めんを参照されたし）

## 大阪パシフィックベンディング、分離独立

パシフィックベンディング㈱（滝沢保博社長、東京都渋谷区千駄谷三丁目十一）は、このほど同社大阪営業所を分離独立し、それぞれ関東、関西地区の販売を担当することになった。これにより発足した新会社「大阪パシフィックベンディング㈱」の社長には、もとの大阪営業所の井上和郎氏が就任された。

所在地などは次のとおりである。

大阪市西区阿波座中通二丁目四八（カツヤマビル一階）　郵便番号五五〇　大阪パシフィックベンディング㈱　代表取締役井上和郎　電話〇六—（五三一）六三九一（代）

### 社　告

本紙ご購読を希望されます方は、左記あて現金書留でお願いします。

年間（三六回）購読料七千二百円で、確実にお手元にお届けさせていただきます。

530大阪市北区木幡町四五 アドビル内
ゲームマシン社

### 物品税とは？

物品税はなぜスロットマシンにかかるのだろうか、また、そもそも物品税とはなんであるのか——そういった疑問ぬきに物品税はスロットマシンにかかるから、他のゲームマシンにもかかるかもしれない、など大騒ぎするのは、まったくおかしいの一言につきる。▼そのくせ、一方では、自分たちの業界があまり社会的に高くない地位にあることを嘆いたり、さらには儲からんなどとボヤイてみたりする。要はボロ儲けをした過去があるから、そんな考えになるのだろうが、それではあまりにもサミシイ感じがする。▼勉強しなくても昔は金儲けをすることができた。ところがそれでは将来性というものがないし、第一、危険そのものである。たとえば税金のゼも知らずに平気でコトを進め、儲ったと威張っていた人が、脱税でガバッと持っていかれる。▼そのくせ自分の不勉強を棚にあげて、他の人のせいにする。これでは高い地位にのぼれるはずがないし、先も見えている、というのが常識。▼物品税のイミはいくつかあるが、それぞれのイミについては、各自研究されたい。

欧米有力業者に会見

# 日本のゲーム場は レイアウトがとても素晴らしい

## 欧米へ逆輸出もありうるシステム　非換金はエンタテイメントを生かす

本紙では、このほど日本のアミューズメント業視察のため来日されたリンドセイ氏、ジョーンズ氏との会見する機会をえた。欧米の事情、日本のゲーム場に対する意見など、貴重な話を聞くことができた。

㈱ジャトレの仲田氏のお世話により、本紙記者は、欧米でも指折りの二人の業者に、九月二十日会見することができた。

会見の席には、リンドセイ、ジョーンズの両氏がついたが、リンドセイ氏は英国ジョン・ハックスレイ（カジノ用品）社の社長、ジョーンズ氏は米国アーゼイ・エクスポート社の社長である。

ジョン・ハックスレイ社はルーレットテーブルなどゲームテーブルについては世界最大のサプライヤーであり、本場ラスベガス、モンテカルロなどへ納品しており、リンドセイ氏はこれで来日は二度目。アーゼイ・エクスポート社は、米国にあってバリー社のスロットマシンやジュークボックスなど、あらゆるゲームマシンの輸出を行っており、ジョーンズ氏はこれで来日は七度目ということである。

両氏とも日本市場に非常な情熱を持っている。そこでまず両氏に、日本のゲームコーナー――たとえば新宿のカジノゲーム場など――を見られて、どういう印象を持たれたか、と質問してみた。（以下でLはリンドセイ氏、Jはジョーンズ氏）

### 本場ラスベガス等と比べて　ローコストで大変大衆的だ

J　ビューティフルレイアウト！　とにかく日本のゲームコーナーはうまくレイアウトしている。それに内装がすばらしい。それだから、日本のヤングはゲームコーナーにすっと融け込んでいけるのだろう。みんな実によく楽しんでいるように思う。

こういう日本のゲームコーナーが、いったいどこから来たかと考えると、私はひょっとしたらベルギーのシーサイドのゲーム場からではないか、と思っている。それは約10年前からあるものだが、どうもよく似ている。

日本のゲームコーナーは欧米のそれと比べて、いろんなタイプのマシンがあって、客は豊富な種類の中から好きなものを選べる。

一言に言って日本のゲームコーナーは信じられないほどすばらしい。日本の若者がなにをしたいか、それを的確にとらえている。つまり、老人、子供よりまずヤングの気持をキャッチしており、今後も発展していくだろう。

ジョーンズ氏

ひょっとしたら、近い将来において、日本のゲームコーナーが米国へ逆輸出されるのではないか、と思う。ラスベガスなどは高級すぎて一般大衆はなかなかその楽しみを与えられない。その点、日本のゲームコーナーは大衆的なアミューズメントである。そういうものを米国の若者も望んでいるように思う。

L　私は日本のゲームコーナーをそれほどよく見ているわけではないが、それでも東京のゲームコーナーを歩いて思うことは、今後日本のゲームコーナーの拡大には十分期待できるということだ。

換金しないということは信じられないことであった。ラスベガスなどの本場では考えられないことであるが、日本ではそれで結構楽しんでいる。つまり、[illegible]ントがあるわけで、それが的確だということだと思う。

J　非換金というシステムはとてもいいことだ。だいいちローコストでいけるし、大衆的だ。今後は若者だけでなく、利用層を拡げていくべきだと思う。

大衆的だと言うことであるが、メダルゲームの場合、日本ではだいたいそのプレイ料金は10枚二百円ぐらいだ。この値段についてはどうか――

J　安すぎる。米国だったらスロット一回するだけで最低二五セントはとられる。日本のゲームコーナーでは非常に安い料金で遊ぶことができる。つまりエンタテイメントをたった二十円で手に入れることができるわけだ。

だからお金を賭けないでもお客さんは納得する。若い人たちが自分の出せる範囲のお金で――たとえば三百円とかで――十分に楽しめる。

### 非換金を納得しているから　楽しみを十分に満喫できる

先ほど、日本のゲームコーナーの形態が、米国へ逆輸出されるかも知れないとお聞きしたが、そういう可能性はどう見出せるのだろうか――

J　日本のゲームコーナーではなにしろ換金はやらない。ちゃんと入口にもそう書いてあるし、お客はそれで納得している。決してギャンブリングにはならないし、ギャンブリングとは全く性質の異なるものだ。

楽しみだけを与え決して換金しない、ということの方法は、まさに偉大なことである。われわれは日本で行なわれているこの巨大な経験に注目している。若者の気持をつかんだこのシステムは、やがて米国でも行なわれるにちがいない、と思うわ[illegible]

L　欧米ではどこでもエンタテイメントにはお金がかかる。モンテカルロでも何億というカネが賭けられてはじめて楽しみを手に入れていくわけだ。

それに映画でもプロ野球でも見るだけで多くのお金が必要なのに、ゲームコーナーでは自分で選んだマシンやテーブルで、自分で遊んで楽しみを手に入れることができる。

わずかな金額で、しかもギャンブリングではなしに、楽しむ。これは理想的なエンタテイメントではないだろうか。[illegible]

リンドセイ氏

Left
MR. LINDSAY
JOHN HUXLEY (CASINO EQUIPMENT) LTD.
107 Angel Fartory Colony, Edmonton, London, N.18
Right
MR. JONES
ARJAY EXPORT CO., INC.
12 Leonard road, P.O. BOX 464
East Sandwich, Mass. 02537

### 教会にビンゴマシンを設置　ニュージャージィなど自由化

ところで、米国では日本のようなゲームコーナーが、なぜないのだろうか――

J　日本のあなたがたが考えているほど、米国は自由な国ではないのだ。規則や法律に縛られ、身動きがとれない国が米国だ、と言えるだろう。二百年しか歴史のない国であり、オールドファッションの非常に強い国なのだ。

しかしそれでも国民は少しずつ変化していく。規則も法律もだんだん緩やかになってきている。今ではビンゴマシンが教会に置かれている所もあり、全体に自由化の傾向にある。

従来、ネバダ州などしかギャンブリングは合法ではなかったが、近くニュージャージィ州で合法化されることになっている。

ギャンブルというイメージをどうしても与えてしまうのか、日本ではギャンブリングをしていないのに、どうも業界のイメージは悪く、業者の人びとの社会的地位が低い。歴史ある欧米から見て、その点どう考えるか――

J　ホワィ！　どうしてだ。これだけ有意義な仕事をしていて、まず社会的地位が低いわけがないではないか。（一同大笑い）

### 低かった業界の社会的地位　歴史的な歩みを背景に成長

オーケー。わかった。米国でもむかしは大変品のよくない仕事だった。その歴史を言うととてもとても長い話になってしまう。

米国では二五年ほど前までは社会的地位も低かったし、法律的にもいろいろ制約されていた。それが次第に認められ、同時にだんだんコインマシンも成長し、今では有名な大企業がみんな手を出しているぐらいである。

L　英国でも社会的地位は低かったが、約十年ほど前にチェンジし、法で認められると、貴族や上流階級の人がやりだした。それほどまでに変化していったのである。

つまり一九五〇年代はアミューズメント業界はどんどん下火になっていったのが、六〇年代に入ってコインゲームとして社会的地位を上げていった。今ではどこの大衆酒場でもスロットマシンがあるぐらい普及している。

J　ヒルトンなど世界的に有名なホテルも、アミューズメントを一部分として置くようになっている。要は、社会的地位は一朝一夕になったのではなく、歴史的な歩みがずっと底のほうにあるのだ。

日本でも年いった大人はこういうゲームにすら罪悪感を感じる。ギャンブルだという後めたさを持つのだが、若者はと言えばそんなものを全然持っていない。だからゲームコーナーに行く――

J　まったくだ。若者は楽しみを手に入れるためにゲームコーナーに行く。

ゴルフみたいなものなら高額のお金を支払う少数の者しか楽しめないが、ゲームコーナーだと三百円もあれば十分なのだから。

スロットマシンについても、米国ではかっての歴史から、十年ほど前までは年寄りしかやっていなかった。それでいてオールドたちは罪悪感を持っているという、奇妙な感じだ。

### ゲームの楽しさは底なしだ　客に失望させないよう注意

さて、非換金のエンタテイメントとは言え、いったいゲームマシンの魅力はどこにあるのだろうか。スロットマシンなどは日本のゲームコーナーでも異常なほど人気があるが――

J　米国ではみんな、カードでもなんでも、とにかく当てると楽しい。スロットマシンは当たると大きな勝ち点がある。一発アテタという気になる。オレは勝ったという実感を味わえる。そういう心理を巧みに利用して、楽しませてくれるのがスロットマシンなのだ。

他のゲームマシンやテーブルも同じことで、当って手に入るものが多ければ楽しいわけだ。だから、換金するしないは問題にはならないし、日本のゲームコーナーはそれではやるわけなのだろう。

L　思うに、家庭で行なうミニチュアのスロットマシンやルーレットテーブルも、けっこうおもしろくて、ギャンブリングという変なものを持ち込む必要がまったく必要ない、と私は思う。

ルーレットなど、日本の歴史的風土からみて、なかなか浸透しにくい面もあると思うが――

L　そんなことはない。たしかに、日本ではルーレットの歴史が浅いと思うがやがて浸透するにちがいない。

ルーレットは欧米ではもっともポピュラーなゲームで、約二百年前からおなじみである。欧米ではだれでも知っている。決して難しいものではなく、三六通りのひとつを選べば三六倍になるし、二種類のひとつを選べば二倍になる。いろんな人がいろんな倍率で楽しむことができる。これがルーレットのおもしろみだ。

いろいろ有益なお話をうかがったが、日本のゲームコーナーへのアドバイスをさいごにお聞きしたいと思う。

J　いまのやりかたがベストだと思う。今後は広い層に親しめるよう配慮する必要があるが。

ゲームコーナーのレイアウトは大変重要だ。見た瞬間に客を引きつける、そういうふうな内装インテリア、レイアウト、デザイン。これが一番重要である。私の見たかぎり、とてもすばらしかった。

客に満足感を与えるのに必要なもうひとつの条件は、つねに場内をきれいにし、清潔にしておくこと。タバコの吸ガラやゴミの落ちているところに客はやってきてくれない。

日本のゲームコーナーが、みんな力を合せて仲良く、業界の発展に尽していることを、私たちは望んでいる。

ゲームコーナー拝見

# おじさんにはうたをヤングには遊び場を

山口　明

　あっという間であった。こんなにゲームコーナーが増えるなんて。最近の勢いを見ていると、パチンコ屋と同じぐらいに、盛り場には必ずあるという具合になっている。百円硬貨で遊べる場所が出来ることは、ストレスたまーる一方のサラリーマンやあんまり嚢中が豊かでないヤングにとって歓迎すべきことといえようか。

　街んなかでは、子供たちの遊び場がないとよく言われ、実際、昔のような原っぱや空地が少なくなってもいる。この子供たちが少し大きくなるに及んで、「遊びに行こか」となった時、やはり子供の時と同じように〝遊び場〟はないのだ、依然として。もろもろの物価上がりっ放しの当節、遊びの三悪と言われるものをみても、「飲む」はそうたくさん飲めるというものではない。「打つ」にしても、シラケ世代のヤングにとっては、いつまでも熱中を持続出来るものではない。そして「買う」は、三悪の中でも一番難しいもので、高くつくときている。

　そこでついつい素人の女の子と、仲良くなるという仕儀になる。そしてその女の子と「遊びに行こか」である。でも「おじさんに歌がない」ように、ヤングには〝遊び場〟がないのである。

　結局、ヤングのための遊び場を！　というのが、ゲームコーナー増加の因と、ぼくはふんでいる。

### 暗くていいムード

　メダルゲームは、パチンコが景品と換えられるという点と違うことがよく指摘される。ぼくなんか、パチンコしたい時はパチンコするし、メダルゲームしたい時はメダルゲームをするというだけのことで、パチンコもプロ級でない限り、いつも何千円と勝つことはありえない。むしろ、たいていの人は負けているのではないか。だから、遊び場は、TPOに応じて選んでいるだけである。

　むしろ、パチンコとの違いは、場内の暗さにあると思う。暗いパチンコ屋なんてない。ところが、ゲームコーナーは、おおかたダークムードである。朝の九時半に入っても、夜の気分になれるのだ。この点が大いに違うところ。スロットマシンやビンゴゲームの盤面の照明部分が、暗い店内に浮き上がっており、気持はおのずと一点に集中するようになっている。

### 興奮するスロット

　そのうえ、幸運に恵まれて、二百枚とか千五百枚とかメダルが出てくれば、その間中、パトカーのそれみたいなマシン上のランプが点灯され、ベルが激しく鳴るという仕組になっている。

　ぼくは、千五百枚なんて絶対出ないもんだと思っていたが、そんなことはなくて、何度か人が出すのを見たことがある。アベックでひとつの台でスロットを楽しんでいた人の場合、たまたま女の子がハンドルを引いたらしく、興奮して男の子に抱きつかんばかりといおうか、実際に抱きついて喜んでいる。だが余りに出続けるので「コワイワ」という始末で、まわりの人々はただだうらやましげな眼で眺めている。かくいうぼくも、ベルを鳴らして誇らしげにタバコを一服やった経験もあるが、メダルの枚数はささやかなものだった。

　ときに、よく下ばかり見て歩いている人がいる。特にペニーフォールのまわりなどを重点的にパトロールしている。メダルが元気よく滝のように落ちてきた時、受け皿から更に床に落ちてしまう分を狙っているのだ。こんなさもしい根性は微塵も持ってはいけない。せっかく遊びに来たんだから。

### ペニーフォール成功

　だが、フトコロが淋しい時には、どうすればよいか。いい手がある。これは、ぼくの経験が実証するところなので、信じていただきたい。まず、最低枚数（たいてい14枚）をしっかと握って、ペニーフォールのいまにも落ちそうな場所を確保する。そして確実に一枚が二枚、二枚が四枚とメダルを増やし、潮時を見て早めにやめる（ここが肝心）。しつこくするのはどんな場合でもよろしくない。この時、少なくとも倍にはなっていなければいけない。これをもってスロットマシンへ行き、ウインラインが多いのを選び、精神を集中しハンドルを引く。浮気はやめて一台でやり抜く。そうすれば、メダルは、受け皿にあふれかえることになる。

　ところでどんなにメダルゲームに熟練しても、プロということにならない。メダルは遊ぶために使い、楽しんだらそれでよしとするという点は、オリンピックのごときアマチュア精神と似通っていて、これはこれで心楽しきレジャーである。オリンピックもあの金や銀のメダル一枚のためにプレーするのであった。

　ルーレットが入ったと聞いて、だいぶ前のことだがすぐ出かけたことがある。とっつきにくい感じだったが、説明書をもらったのでなんとか楽しめた。近ごろは常連風の人たちで席が占められており、よくルールを知らない人はゲームに入りにくい感じがある。まわりに立って見ている人に、当初のように説明書を配り積極的にアドバイスしてみたらどうだろうか。

　ゲームコーナーにはたいていジュークボックスが置いてある。音楽はもちろん結構なのだが、たまには説明や案内のアナウンスを流してもよいと思うのだが。ゲームがより親しみやすいものとなるだろう。

### ソウルでノる調子

　スロットのジャンボマシンが置いてある店で、人が大きなハンドルをまわすのをぼんやり見ていたら、突然ジュークボックスが重量感あふれる音を出して、ソウルミュージックをがなり始めた。ジュークボックスの前では、ひげをたくわえたトラッドなスタイルの青年が、腰をリズムに合わせ巧みに動かしていた。ゲームコーナーに来ても、こんな楽しみ方があるものかと、ぼくは感じいって、そのトラッド野郎のノっている表情に見とれていた。

（やまぐら・あきら　TVディレクター）

# MOA、バリー工場など見学

1974年度
米国MOA視察旅行

**10月31日～11月13日　主催　(株)エスコ貿易　(株)ジャトレ　日本出版企画制作(株)**

## 三社共催で初の試み

㈱エスコ貿易など三社共催で、七四年度、「米国MOA視察旅行」が、十月三一日から十四日間にわたって予定されている。この旅行ではMOAショーの他にバリー社工場見学など盛りだくさんの企画が含まれており、参加者希望者は早くお申込みを、と三社は呼びかけている。

㈱ジャトレ、㈱エスコ貿易、日本出版企画制作㈱の三社の主催で、一九七四年度「米国MOA視察旅行」が行なわれる。期間は一〇日三一日から十一月十三日までの十四日間で、米国MOAショーのほかバリー本社、ラスベガスなどの視察が目的となっている。

米国MOA（ミュージック・オペレーターズ・アソシエーション）は、ジュークボックスや各種ゲームマシンに関するアメリカでの最大の団体であり、MOAショーはMOAが毎年行っているもの。今年のショーは第二六回目で、十一月一日から三日間シカゴのヒルトンホテルにおいて開かれる。有名なこのMOAショーは、世界でも最大の催しであり、日本の業者も今までに数多く見に行っているが、最近のゲームマシンブームを背景に、今年は日本から相当多数見学に行くものと言われている。

米国バリー社（バリーマニュファクチュアリング・コーポレーション）は、シカゴに本社を置く世界有数の娯楽機械メーカーであり、とくにスロットマシン、フリッパーについては世界の市場のほとんどを占めると言われている。

オーランドにあるデズニーワールドは、これまた世界最大の遊園地で、故デズニー氏が巧みな発想で仕上げており、心から楽しめる傑作と言われている。

またラスベガスは、ネバダ州にある世界有数の賭博場で、ありとあらゆるギャンブリングがある。

## バリー社長と親しく会談

今回の「米国MOA視察旅行」のスケジュールは別表のとおりであるが、MOAショー、デズニーワールド、ラスベガスなどの見学のほか、バリー社工場見学につづく社長主催のパーティがある。バリー社社長と親しく対話できるこの企画は、まさに今回の旅行ならでは、と言うことができる。

### 募集要項

以上盛りだくさんな企画で進められているが、主な募集要項、問い合せ先は次のとおりである。

旅行費用四五万円（但し八月現在での計算なので変更がありうる）。人数四十名（先着順で定員になれば締切る）。問い合せ先①㈱エスコ貿易（東京都目黒区大橋一―七―四久保ビル四F電話〇三―四六二―〇四七七）神保氏。②㈱ジャトレ（東京都中央区銀座二丁目七番十一号ブラジルビル六F電話〇三―五六四―一五〇一）仲田氏。③日本出版企画制作㈱（大阪市北区木幡町四五アドビル四F電話〇六―三一四―一四五九）小林氏。④ホリディ企画室（東京都港区新橋三―二―七恭和ビル電話〇三―五〇三―二七七八）栗原氏。

バリー社の工場風景

| 月日 | 曜 | 都市名 | 現地時間 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|
| 10/31 | 木 | 東京発<br>サンフランシスコ着 | 14:45<br>08:00 | ジャンボ機にてサンフランシスコへ<br>到着後市内視察、ホテルへ |
| 11/01 | 金 | サンフランシスコ発<br>シカゴ着 | 14:55<br>20:46 | 朝食後出発迄自由行動<br>到着後ホテルへ |
| 11/02 | 土 | シカゴ | | 朝食後バリー社工場見学および社長主催のPARTY出席<br>午後MOAショーの見学 |
| 11/03 | 日 | シカゴ | | 朝食後、業界視察 |
| 11/04 | 月 | シカゴ発<br>マイアミ着 | 12:00<br>15:33 | 朝食ホテルにて<br>出発まで自由行動<br>到着後ホテルへ |
| 11/05 | 火 | マイアミ発<br>オーランド着 | 08:00<br>08:47 | 朝食後空港へ<br>到着後ホテルへ<br>終日デズニーワールドの視察 |
| 11/06 | 水 | オーランド | | 朝食後デズニーワールドの視察 |
| 11/07 | 木 | オーランド発<br>ラスベガス着 | 08:05<br>12:31 | 朝食後空港へ<br>到着後ホテルへ<br>終日ラスベガスの視察 |
| 11/08 | 金 | ラスベガス | | 朝食後、別途料金にてグランドキャニオンの視察 |
| 11/09 | 土 | ラスベガス発<br>ロスアンゼルス着 | 10:10<br>11:00 | 朝食後空港へ<br>到着後ホテルへ |
| 11/10 | 日 | ロスアンゼルス発<br>ホノルル着 | 09:00<br>11:25 | 朝食後空港へ<br>到着後ホテルへ |
| 11/11 | 月 | ホノルル | | 朝食後レジャー関係の視察 |
| 11/12 | 火 | ホノルル発 | 13:10 | 朝食後出発迄自由行動<br>ジャンボ機にて一路東京へ |
| 11/13 | 水 | 東京着 | 16:00 | 到着後通関<br>自由解散 |